

福祉サービス第三者評価 評価結果報告書

株式会社にこにこ
末吉にこにこ保育園

平成29年 11月 7日

株式会社フィールズ

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構 認証第6号

目次

評価結果総括

- 評価方法 1
- 総合評価 2
- 評価領域ごとの特記事項 5
 - 人権の尊重
 - 意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供サービス
 - サービスマネジメントシステムの確立
 - 地域との交流、連携
 - 運営上の透明性の確保と継続性
 - 職員の資質向上

分類別評価結果

- 利用者本人（子ども本人）の尊重 8
- サービスの実施内容 11
- 地域支援機能 15
- 開かれた運営 16
- 人材育成、援助技術の向上 17
- 経営管理 18

利用者本人調査

- 利用者本人調査結果 19

家族アンケート結果

- アンケートの概要 25
- アンケート結果 26

事業者コメント

- 事業者からのコメント 31

評価結果総括

法人名 株式会社 にこにこ
事業所名 末吉にこにこ保育園
施設長名 牧島 綾子

□ 評価方法

自己評価方法

実施期間 平成 29 年 6 月 1 日～平成 29 年 8 月 15 日
実施方法 全職員が合議して自己評価を実施し、施設としてまとめた。

評価調査員による評価方法

実施日 平成 29 年 9 月 21 日、平成 29 年 9 月 28 日
実施方法 評価調査員が訪問し、施設の見学、資料確認及びヒアリング等で実施した。

利用者家族アンケート実施方法

実施期間 平成 29 年 8 月 1 日～平成 29 年 8 月 21 日
実施方法 施設から利用者家族へ配布し、返送は直接家族より評価機関に郵送してもらった。

利用者本人調査方法

実施日 平成 29 年 9 月 21 日、平成 29 年 9 月 28 日
実施方法 訪問調査時に保育見学、食事や活動場면을観察して行った。

□ 総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項）

〔施設の概要〕

末吉にこここ保育園は平成 16 年 4 月に開設した認可保育所で、定員 60 名のところ現在 66 名が在籍しています。園は JR 鶴見駅より徒歩 17 分、あるいはバス利用でバス停から徒歩 1 分ほどの住宅地にあります。周辺は古くからの住宅や商業店舗、工場、新しい住宅などが混在した地域となっています。近隣に大小様々な公園や鶴見川河川敷があり、園外活動に利用しています。

園舎 1 階を 3～5 歳児クラス、2 階は 0～2 歳児クラスが使用しています。「豊かな人間関係の基盤をつくる」を保育方針とし、保育目標は「心身ともに健やかな子ども」「自分で考え行動できるよう基盤を培う」「基本的な生活習慣を身につける」「子どもが喜んで登園し笑顔で降園できる環境づくり」としています。

外部講師による、体操、リトミックを保育活動に取り入れ、栄養士を中心とした食育などを行っています。

《優れている点》

1. 戸外活動を積極的に取り入れて、子どもの心身の成長を支えています

保育目標のひとつに、「心身ともに健やかな子ども」をあげています。天候に応じて週日案の活動予定を変更するなど、外に出る時間を作り戸外活動を積極的に行っています。園庭遊びのほか、園外活動時は近隣にある消防署を訪問したり、公園の草花や樹木などに季節の移り変わりを感じ、鶴見川の流れを見るなど地域の環境を楽しめるように散歩コースを設定しています。子どもたちは園庭や公園の固定遊具、なわとび、かけっこなど体を動かし、発達に応じた遊びを楽しんでいます。

幼児クラスでは 1 年間の戸外活動の集大成として、毎年 2 月に鶴見川沿いの公園でマラソン大会を開催しています。マラソン大会は子どもたちの楽しみな行事の一つで、賞状や金、銀、銅のシールを目指し、頑張って練習しています。こうした活動の中で目標を持ち頑張ること、達成した喜びを感じるなど子どもたちの心と体の成長を促し、健やかな育ちにつながっています。

2. 多くの人に見守られた繋がりの中で子どもが育っています

園は、理念である「家庭と変わらぬ環境で過ごせるよう愛情をもって日々保育にあたる」ことに努めています。「朝の会」で出席をとるときは、子どもの返事の後に「大きなお声だね」「今日はちょっと元気ないかな」「昨日より体調よくなったね」など子どもたち一人一人に向けて声を掛けています。

また、クラス担当をしている複数の職員の出席確認を行い、子どもたちに知らせています。職員の姿が見えない時には「おやつ準備をしてくれています」「みんなのお遊びの用意をしてくれています」「遅番だから～時ごろ来てくれます」と子どもに伝えるようにしています。

子どものことを思いながら見守り、支援をし、子どもたちが大切にされている安心感を持てるよう

に職員は保育をしています。子どもたちはそんな職員の思いのなかで生活しています。

また、開設以来、「家庭・保育園・地域」が協力し合って子どもの健全な発達をサポートすることを大切にしています。近隣住民の暖かな見守りや、手助けとともに、園外活動や地域の高齢者や小学生、他の近隣の保育園同士の交流で、さまざまな体験をする機会を大切にしています。また学生による音楽演奏のボランティアや、大学生のボランティアサークル、鶴見区のボランティア組織からの参加も多くあります。資源循環局の職員から、子どもが環境についてのお話を聞く機会もあります。子どもは地域の色々な人との交流や地域を知る体験を通して育っています。

3. 保育力向上に向けて研修実施や職員配置に工夫しています

園の内部研修を毎月 1 回行っています。「園内のヒヤリハットマップ作り」「避難訓練」「子どもへの関わり」「園内の環境構成」などテーマを設定し、積極的に取り組んでいます。また外部研修も年間計画をたて、本人の希望も踏まえ、効果的な研修受講ができるようにしています。

会議や打ち合わせの際には、一方的な報告や周知に留まらないように、参加者全員で話し合い、考え合うように努めています。園内での話し合いを大切にして、子ども一人一人の状況は皆で把握し、連携をとることで職員の誰もが同じ対応ができるように心がけています。

園にいる全ての子どもを把握・理解し、対応できるようにシフトや配置、編成に工夫しています。乳児、幼児に特定しない配置・編成により、多くの保護者ともコミュニケーションをとる機会が増えています。また常勤・非常勤にこだわらず、園の職員の一員として責任をもって業務に当たれるような職員のシフトや配置をとることで、保育者としての意識を高め合っています。

《努力・工夫している点》

1. 保護者からの声を大切にし、より良い園運営に向けて交流連携を図っています

保護者の意向で発足した「父母会」が活発に機能しています。「父母会」のアンケートから出された意見、意向を受け止め、職員会議などで検討し、運営法人にも内容を報告しています。主食の提供、保育参観時などを利用して、衣類のリユース品を自由に持ち帰れるようにした取り組み、ホームページの開設や卒園アルバムの製本方法の変更などは、意見をもとに変更や実施を行いました。

また、保育参観日を増やし保護者が参加しやすいよう配慮するなど取り組みを行っています。保育参観では、保護者が実際に保育に参加できるスタイルに変更しています。保育参加時に幼児クラスでは、給食も子どもたちと一緒にテーブルで同じメニュー、同じ量を食べる体験ができるようにしています。保護者の声を受け、可能な対応を実施し改善、向上に努めており、保護者理解を促す取り組みを実施するなど、保護者と園との交流や連携が図られています。

《課題や改善することが期待される事項》

1. マニュアルの整備と職員への周知による業務の標準化

マニュアル類は、いつでも確認できる状態になっていますが様々な様式でファイルされており、参考資料も混在しています。また見直し時期が曖昧になっています。勤務年数が長い職員や経験豊富な非常勤職員も多く、日常業務は滞りなく行われています。

さまざまな職員による業務の標準化に向け、園として統一された業務マニュアルの検討が望まれます。整備されたマニュアルを全職員に周知し業務の標準化が期待されます。

2. 職員の期待水準を明文化し、人材育成計画の策定

職員の経験・能力・習熟度に応じた期待水準の明文化がされていない状況です。職員が自らの役割と課題を認識し、技術の向上に向けた意欲を高める取り組みを進めるためにも、期待水準の明文化は必要です。

明文化により職員一人一人が期待水準を把握することが期待されます。また、期待水準に基づき、主任クラス以下の人材育成計画を策定して、必要とする人材を育成することが期待されます。

3. 中長期計画の策定

保育園の役割と責任を果たすために、地域支援や内部研修等で保育力向上を図るなど努力をしています。

しかし中期的視野で社会環境や時代の変化に即した中長期計画は文書化されていません。園の理念に基づき、持続的な施設運営を可能にするため、園の進むべき方向が明確に記された中長期計画の策定が期待されます。

□ 評価領域ごとの特記事項

1. 人権の尊重

- ① 保育理念は「子ども一人一人の個性を尊重し、家庭と変わらぬ環境で過ごせるよう保育士一体となり、愛情をもって日々保育にあたります」としています。保育方針は「豊かな人間関係の基盤を作る」とし、保育目標は「心身ともに健やかな子ども」「自分で考えて行動できるよう基盤を培う」「基本的な生活習慣を身につける」「子どもが喜んで登園し笑顔で降園できる環境づくり」としています。理念などは利用者本人を尊重したものとなっています。
- ② 子ども一人一人の気持ちを大切にできちんと目を見て、年齢によって言葉かけの仕方や内容を変えながら職員として望ましい対応を心がけています。接し方、話し方、子どもの人権を尊重することなどは会議や内部研修で確認し合っています。
- ③ 就業規則やマニュアルで全職員は個人情報の定義や守秘義務の意義や目的について周知し、それに従い行動しています。実習生には、受け入れ時のオリエンテーションで同様の対応をしています。保護者には入園時に園での対応を説明し、個人情報使用同意書、個人情報保護に関する誓約書をもっています。

2. 意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス

- ① 保育理念、保育方針に沿った保育を実践するために、年齢ごとの保育目標を設定しています。保育課程は、保護者の状況、地域の環境、特徴・実態などを考慮し作成しています。保育課程に基づき年間指導計画・月間指導計画・週日案を作成しています。職員会議、カリキュラム会議などで話し合いや、振り返りを行い、子どもの様子を共有し、保育に活かしています。また職員は、子どもの気持ちを受けとめ、意欲的に物事に取り組み、行動できるように支援しています。
- ② 3歳未満児について月ごとの個別指導計画を作成しています。個別指導計画は職員会議、カリキュラム会議で情報共有し、意見交換を行い、柔軟に変更、見直しを行っています。保護者には、離乳食やトイレトレーニングの進め方など、一人一人の成長過程の把握が必要な場合に、説明し同意を得ています。
- ③ 子どもがそれぞれの興味、関心を持って遊べるように、発達に応じて環境を整え、取り出しやすい場所に絵本や遊具、教材等を用意するよう工夫しています。子どもの意見や発想を取り入れ集団活動や遊びに繋げ、年齢ごとにルールを取り入れた遊びなどで、友だち同士の関わりに援助をしています。食事は子ども一人一人の好き嫌い、食事量を把握し、盛り付けから減らすなど、完食の喜びが味わえるようにしています。排泄は、活動の切れ間に声掛け、それぞれの子どもの排泄のリズムを把握し、無理強いすることがないようにしています。

3. サービスマネジメントシステムの確立

- ① ならし保育は、園見学時・入園説明会・面談で説明と確認をし、保護者の希望や事情を考慮して実施しています。一人一人の「ならし保育日誌」を丁寧につけています。入園時に把握した生活記録や、入園後の成長・発達の記録、面談の記録は個別にファイルしています。必要時に職員が確認できるようにしています。
- ② 食物アレルギーや、障害、虐待など配慮が必要な場合は、研修を受講し保育に活かしています。職員会議・内部研修で報告し、それぞれのケースについては、話し合いと検討を行い、記録を残しています。健康管理・衛生管理・安全管理に関する各マニュアルを整備し、マニュアルに基づいた対応や訓練を行っています。行政、医療機関、学校、関係機関などリスト化し全職員で共有しています。
- ③ 懇談会、個人面談、父母会（保護者組織）、意見箱などで意見や要望を聞く機会を作っています。送迎時の会話、日常の様子などからも意向をくみ取るよう心がけています。苦情解決の受け付け窓口については、園内掲示と入園時配付の「重要事項説明書」に明記しています。

4. 地域との交流・連携

- ① 園の行事や「移動動物園」などの催事、「園庭開放」の予定は、園のホームページや園門扉に掲示情報を提供しています。近隣住民や高齢者、小学生などを招待しています。近隣保育園の年長交流会や、中学生の職業体験、中・高校生や一般の人のボランティアの受け入れ、地域施設利用、地域行事へ参加などで交流を図っています。
- ② 園のパンフレットや園のホームページ、鶴見区地域子育て支援拠点「わっくんひろば」の情報媒体で、園情報を提供しています。園見学は園の設定日に、園長・主任が案内と説明をしています。
- ③ 園見学者や園庭開放時の育児相談、自治会や敬老会・近隣住民との日常の交流、鶴見区の園長会、幼保小連絡会などから、地域の子育て支援ニーズを把握するよう努力しています。

5. 運営上の透明性の確保と継続性

- ① 職員の自己評価後に、職員会議などで話し合い、課題等把握に努めています。また園独自の「保育士ふりかえり表」に基づき、職員の自己評価を定期的に行い、園長面談などで話し合いをしています。園としての自己評価や課題についての公表は今後行う予定です。
- ② 職員が守るべき倫理・服務規程は「就業規則」に明文化しています。保育理念、基本方針が明記された「重要事項説明書」を職員に配付しています。保育目標、保育課程を園内に掲示しています。
- ③ 園では、園長が鶴見区園長会、幼保小連絡会や横浜市などの行政機関から情報収集し、他園に問い合わせするなどしています。園に関わる事項は職員会議で話し合い周知しています。

6. 職員の資質向上の促進

- ① 研修計画は主任が担い、園内研修計画を立てています。外部研修情報を職員に知らせ、本人の希望も取り入れ、効果的な研修となるように園長・主任が助言したり、勧めたりしています。
- ② 年間指導計画、月間指導計画、週案、指導計画・保育日誌に自己評価の欄があります。年間指導計画は期ごとに項目ごとの評価用紙を使用しています。見直し後、次の指導計画に反映しています。振り返りから気づいた課題は職員会議で話し合っています。
- ③ クラス運営、行事担当、各業務において現場にいる職員が主体的、自発的に判断して保育にあたるよう可能な限り、権限を委譲しています。主任・園長に連絡や報告をし、最終的な責任を明確にしています。職員一人一人が「保育士」として、また「園の職員」としての自覚を持って仕事をするよう園長は指導しています。

分類別評価結果（および理由）

※ ひょう太マークは各項目において下記の水準をあらわしています。また、各項目ごとにひょう太の数の理由のコメントがあります

3つ：高い水準にある 2つ：一定の水準にある 1つ：改善すべき点がある

I 利用者本人の尊重

I-1 保育方針の共通理解と保育課程等の作成



- ① 保育理念は「子ども一人一人の個性を尊重し、家庭と変わらぬ環境で過ごせるよう保育士一体となり、愛情をもって日々保育にあたります」としています。保育方針は「豊かな人間関係の基盤を作る」とし、保育目標は「心身ともに健やかな子ども」「自分で考えて行動で着るよう基盤を培う」「基本的な生活習慣を身につける」「子どもが喜んで登園し笑顔で降園できる環境づくり」としています。いずれも利用者本人を尊重したものとなっています。
- ② 保育課程は、園長・主任が園の特色、地域性、保護者の状況を考慮し作成しています。今年度は前年度の見直しや話し合いを全職員でする時間が持てませんでした。実践が期待されます。入園説明会、保育参観時などに保育課程の主旨や保育課程に沿った年齢ごとの目安や目標を、説明しています。園内に、保育課程を掲示しています。
- ③ 保育課程に基づき、年齢ごとに年間指導計画、月間指導計画、週日案を作成しています。乳児クラスは個々の成長に合った保育が行えるように、担任同士で話し合っています。幼児クラスは、子どもの気持ちを受けとめ、意欲的に物事に取り組み、行動できるように努めています。子どもの状況や意欲、興味を取り入れ、計画には柔軟性を持たせています。

I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施



- ① 入園前に常勤職員、場合により栄養士も同席し保護者面談を行っています。前もって保護者に記入してもらった「児童健康台帳」「連絡カード」「面談表」をもとに、面接時の情報を「面談表」に書き足しています。面談後は、園長・主任・クラス担任・栄養士間で情報共有するほか、職員会議で、報告しています。情報は個別ファイルにまとめ、事務室および休憩室に保管管理し、いつでも確認できるようにしています。
- ② ならし保育は、園見学時・入園説明会・面談で説明と確認をし、保護者の希望や事情を考慮して実施しています。ならし保育期間は、「ならし保育日誌」を丁寧につけています。0、1歳児新入園児に対し主担当保育者は特に決めていませんが、自然に信頼関係はできています。0～2歳児クラスは個別の連絡帳があり、園での生活、睡眠、食事、排泄、活動状況など家庭に引き継がれるようにしています。在園児の進級時には、0歳児から1歳児への進級は、担任の持ち上がりを考慮しています。また、在職期間が長く、子どもとも保護者とも顔なじみの非常勤職員をクラス補助に入れる・次年度の保育室に行ってみる・次年度の保育室で保育を行うなどの配慮をしています。
- ③ 年間指導計画をもとに、クラスごとに月間指導計画、週日案を作成しています。毎月のカリキュラム会議、職員会議、幼児打ち合わせ会で、意見を出し合っています。保護者とは、意見箱、送迎時の会話、連絡ノートなどから意向や意見を把握し、計画に取り入れるよう努めています。

I-3 快適な施設環境の確保



- ① 掃除についてのマニュアルがあります。チェック表を使用し清掃を行い、園内外は清潔に保たれています。各保育室にエアコンを設置し、トイレは開園中は換気扇を回しています。保育室や共有スペースは適宜窓や扉を開け、換気しています。日差しがまぶしい場合は、カーテンを引き、調整しています。温湿度計を設置していますが、記録するまでには至っていません。快適な施設環境を確認するためにも、保育日誌などに記録されることが期待されます。
- ② 温水シャワー付き沐浴設備と、テラスに温水シャワー設備があります。汗をかいた後や、プール遊び後などに使用しています。使用後に清掃するほかに、日常の清掃で点検も行っています。
- ③ 低年齢児の保育室は小さな空間やコーナーを作るために、畳のコーナー、床のコーナーがあり、柵、低い仕切り台などを利用しています。食事、午睡は同じ保育室内ですが、場所を分けています。1階、2階ともホールがあり、行事や日常の遊び、おやつを一緒に食べるなど、さまざまな活動の場としています。4、5歳児クラスの仕切りを外して合同で広く使う場合もあります。

I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力



- ① 3歳未満児について月ごとの個別指導計画を作成しています。幼児で特別な課題がある場合は、月案の個別配慮の欄や「発達記録」用紙に様子や状況を記載していますが、個別の指導計画までには至っていません。個別指導計画は職員会議、カリキュラム会議で情報共有し、意見交換を行い、柔軟に変更、見直しを行っています。保護者には、離乳食やトイレトレーニングの進め方など、一人一人の成長過程の把握が必要な場合に、説明し同意を得ています。
- ② 入園時に把握した生活記録や、入園後の成長・発達の記録、面談の記録は個別にファイルしています。休憩室と事務室に保管管理し必要時に職員が確認できるようにしています。
- ③ 保育所児童保育要録は小学校に郵送しています。電話で話や打ち合わせをする場合もあります。園での進級時には、個別の書類、「発達記録」などを基に、新旧クラス担当職員間で引継ぎを行っています。

I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み



- ① 配慮が必要な場合や気になる子どもの様子については、カリキュラム会議で報告、話し合い、記録しています。食物アレルギーや障がい児保育についての外部研修を受講し、研修結果を職員会議で発表することにしています。東部地域療育センターから得た情報をカリキュラム会議で伝えています。園はバリアフリー構造とはなっていませんが、園見学時に、丁寧に説明して、必要に応じた対策や連携をとる体制となっています。
- ② 「虐待防止ハンドブック」を使用しています。職員は虐待の定義とともに、情報を周知しています。疑わしい場合や、見守りが必要な場合には、鶴見区こども家庭支援課や関係機関と連携を取り、相談する体制となっています。日ごろから、保護者にまめに声掛けをし、何でも話しやすい雰囲気を作るようにしています。保護者の気持ちや心身の状況、生活状況に配慮しながら、支援できるように心がけています。

- ③ 食物アレルギーのある子どもには、横浜市の「保育所における食物アレルギー対応マニュアル」に基づき対応しています。保護者に医師からの「生活管理指導表」「除去食申請に対する主治医意見書」を提出してもらい、除去食を提供しています。食物アレルギーのある子どもの保護者とは栄養士が毎月面談を行っています。さらにアレルギー食材が複数あるなど特に注意が必要な子どもについては保護者と栄養士の他、園長、主任、担任も交えての面談を毎月実施しています。食事の際には色別の食器、トレーを使用し名札をつけて提供しています。テーブル拭きも別のものを使っています。座席を決め、職員がそばにつき、誤食をしないよう見守っています。
- ④ 外国籍保護者と意思疎通が困難な場合には、手紙やお便りにルビをふる、ジェスチャーで伝える、言葉が通訳できる親類や近隣の人をお願いするなどしています。食生活や文化の違いについては、現在は特に違いはありませんが、必要に応じて個別に対応することとしています。

I-6 苦情解決体制



- ① 園への要望、苦情受付担当は主任、解決責任者は園長としています。第三者委員の連絡先を「重要事項説明書」に明記し、入園説明会で説明しています。第三者委員を卒園式や運動会に招待しており、保護者も顔見知りとなっています。また、玄関掲示板に鶴見区こども家庭支援課の相談窓口案内チラシが用意されています。園独自の対応が難しい場合は、第三者委員、鶴見区こども家庭支援課と連携をとる体制となっています。
- ② 懇談会、個人面談、父母会（保護者組織）、意見箱などで意見や要望を聞く機会を作っています。送迎時の会話、日常の様子などからも意向をくみ取るよう心がけています。
- ③ 日常寄せられる苦情、要望については迅速に対応していますが、記録が確認できません。数年前まで、詳細なノートがありますので、今後もデータを蓄積・整理し、解決に活かしていくことが期待されます。

Ⅱ サービスの実施内容

Ⅱ-1 保育内容【遊び】



- ① 各クラス、子どもの興味やリクエスト、発達状況に応じ、職員がその都度おもちゃなどを出しています。絵本は棚があり、子どもたちは自由に出し入れをしています。遊びによって机や敷物でコーナーを作り、落ち着いて遊び込める環境を作っています。今後は子どもたち（特に幼児）がより主体的に遊べる保育室の環境構成について検討されることが期待されます。
- ② 乳児は順番を守るという簡単なことから、遊びを通してルールに気づいていく働きかけ、幼児はやっていい事、悪い事を自分で考え行動していくことなど年齢や発達に応じて一斉活動に取り入れています。遊びに参加したい子どもの気持ちのタイミングを見計らって声をかけて、自分から進んで行動に移るまで待つなど職員は援助をしています。
- ③ 園庭のプランターで種や苗から野菜を育てています。土は土壌混合再生をしています。子どもたちは年齢に応じた関わり方で成長や収穫の喜びを味わっています。収穫物は給食で食べたり、家庭に持ち帰ることもあります。カブトムシの飼育やアゲハ蝶を幼虫から育て、羽化して空に放すことで命の不思議を子どもたちは体験しています。園外活動時は鶴見川の流れ、消防署、公園の草花や樹木など季節の移り変わりや地域の環境を楽しめるように散歩コースを用意しています。
- ④ 乳児は職員の歌や手遊びなど楽しんでいます。幼児も歌やダンス、お絵かきなどやりたいことができるようにしています。製作によっては廃材、木の実や葉っぱなど豊富に用意をしています。外部の専門講師によるリトミックを通して表現活動を楽しんでいます。乳児のかみつきやひっかけはすぐに止めに入ります。幼児のけんかは原因や内容を職員が把握し、見守り、間に入ってどちらの気持ちも代弁しながらできるだけ子ども同士で解決できるようにしています。
- ⑤ 朝夕の合同保育、日中の合同散歩や活動、午後のおやつを一緒に食べるなど日常的に異年齢での関わりがあります。職員は子どもの訴えや気持ちをしっかりと受け止めるよう努めています。園長は職員会議などで、親のような眼差しを持ちながらも、常に保育士としての意識を持って子どもと関わるように話をしています。
- ⑥ 戸外活動の際は紫外線や虫刺されなどへの配慮をしています。子どもたちは園庭や公園の固定遊具、なわとび、かけっこなど発達に応じて遊んでいます。幼児は毎週外部の専門講師による体操教室を行っています。その成果は運動会での体操発表で披露しています。また、幼児は毎年2月に鶴見川沿いの公園のフィールドでマラソン大会を開催しています。乳児は保育室内では布団山、トンネルくぐり、巧技台、リズム体操などで体を動かしています。

Ⅱ-1 保育内容【生活】



- ① 子どもが負担にならない程度に「○○ちゃんなら頑張れるよ」「食べると元気もりもりになるよ」など優しく、励ます言葉をかけています。授乳は職員が子どもを抱っこしてゆったりと与えています。離乳食は手づかみ食を促したり、スプーンを持ちたい気持ちを大切に職員が手を添えながら食べられことを一緒に喜んでいます。

- ② 子どもたちは、クッキング、土壌混合再生した土を使用しての野菜の栽培・収穫、栄養士がさばくお魚見学、栄養の話（三色食品群、好き嫌いの話など）、カレーの作り方を手遊びやペープサートを用いて伝える、当番活動など様々な取組みを通し、食に関する興味関心を育てています。季節感を大切に旬の食材を使用しています。毎月行事や季節に因んだメニューがあります。彩りや盛り付けを工夫し、視覚からも食欲が湧くようにしています。毎日の午後のおやつはホールで1、2歳児クラスと3～5歳児クラスと一緒に食べています。ビュッフェ給食で特別感を演出する時もあります。食器は陶磁器で子どもの成長に応じ大きさ、形状を考慮し使い分けをしています。箸は2歳児くらいから遊びの中に少しずつ取り入れています。
- ③ 子ども一人一人の好き嫌い、食事量を把握し、盛り付けから減らしたりしています。残食は栄養士が給食日誌に記録をしています。また、各クラスに給食日誌があり、職員が記録しているほか、気づいたことはその都度栄養士に伝えています。毎月の給食会議は園長、主任、栄養士2名で開催し、給食日誌を基に調理の工夫や献立に反映しています。献立は2週間ごとのサイクルメニューなので、野菜の切り方、味付け、残食が多かった食材は変更してみるなど次回に反映させています。
- ④ 「離乳食未接種表」への記録やアレルギー面接の必要がある保護者のため、翌月分の献立表は余裕をもって配付しています。給食日より季節に応じた献立作成のポイントやレシピの紹介をしています。保育参観時に給食と一緒に食べ、普段の子どもたちの食事の様子を知ってもらう機会としています。
- ⑤ 午睡時、眠れない子どもは布団で静かにしています。0歳児は5分、1歳児は10分ごとにブレスチェック表に記録をしています。その際はうつぶせ寝になっていないか、睡眠の深さなど確認をしています。5歳児クラスは、就学に向け年明けから午睡を減らし、製作など静かな遊びを中心に、生活リズムを整えています。
- ⑥ 活動の区切りに声掛けをしてトイレに誘っています。自立をしている子どもは自分のタイミングでトイレに行っています。トイレトレーニングは保護者の意向を踏まえ、情報共有を密に図りながら子どもの発達状況に合わせて対応しています。便座に一定時間座れるように働きかけたり、トイレに誘って成功した時は褒め、自信につながるようにしています。失敗してしまった時は本人の気持ちに配慮し、温かい気持ちで対応することを全職員が周知しています。

Ⅱ-2 健康管理・衛生管理・安全管理【健康管理】



- ① 毎日の子どもの観察、様子を見ての検温など小さな変化に気づけるようにしています。年度中に罹患した病名、予防接種などは、その都度申し出てもらうほか、毎年健康台帳を返却し、保護者が記録後再提出をお願いしています。健康管理に関する業務や気をつけることなど職員は心得ています。今後はマニュアルを整備されることが期待されます。
- ② 歯磨きは0歳児クラスから歯が生えたら行っています。職員による仕上げ磨きも全クラス実施しています。年2回の健康診断、年1回の歯科健診結果は健康台帳に記録をしています。結果はその日に口頭で保護者に伝えています。健診前に保護者から気になる点など確認し、園医からの回答をフィードバックしています。
- ③ 感染症に関することは重要事項説明書やホームページに明記をしています。保育中に発症した場合は2階の救護ベッドのある部屋で子どもを休ませ、お迎えが来るまで職員が付き添っています。玄関ホールに保健コーナーを設け、園内の感染症発生状況のほか、横浜市や鶴見区、小中学校、他園などから情報を収集し、随時掲示をしています。

II-2 健康管理・衛生管理・安全管理【衛生管理】



- ① 清掃はチェック表で確認をしています。拭き掃除、玩具の消毒など丁寧に行っています。床のワックスがけも職員がしており、清潔・適切な状態を保っています。
- ② 砂場の砂は抗菌セラミックを使用し、砂場を使わない時はネットをかけています。業者による布団乾燥は年4回、害虫駆除は年2回実施しています。マニュアルに基づいた嘔吐処理など園内研修を行っています。マニュアルはその都度必要に応じての見直しとなっています。定期的な見直しが期待されます。

II-2 健康管理・衛生管理・安全管理【安全管理】



- ① 毎月、想定（火災、地震、水害など）を変えて避難訓練を実施しています。全園児参加で広域避難場所への経路確認をしています。保護者への緊急連絡は災害伝言ダイヤル171を利用することとし、年に1度予行演習をしています。
- ② 子どものケガは軽症であっても保護者に伝えていきます。クラスごとにヒヤリハットを出していき、年度末に主任が集計をとり分析し、再発防止につなげていきます。緊急時に備え消防署員を講師に迎え、全職員が救急救命法、AEDの使い方、通報の仕方など講習を受けています。
- ③ 不審者侵入、対応訓練のほか、日常的には警備会社との契約や4台の防犯カメラを設置し、事務所で常に確認をしています。保護者を含む訪問者はモニターで確認後解錠をしています。鶴見区から届くファクスや警察官の見まわり時の話などから得た不審者情報は、職員間で共有しています。

II-3 人権の尊重



- ① 子ども一人一人の気持ちを大切にきちんと目を見て、年齢によって言葉かけの仕方や内容を変えながら職員として望ましい対応を心がけています。職員の都合で子どもを急かしたり強要しない意識を常に持つよう園長は職員に伝えています。
- ② 必要がある時はホールや廊下に出たり、事務室を利用し、子どもと1対1で話したり、プライバシーに配慮をしていますが、保育室内には他の子どもや職員の視線を意識せず過ごせる場所がありません。必要に応じてプライバシーが守れる空間の確保について検討が期待されます。
- ③ 個人情報の取り扱いや守秘義務について、職員は入職時に説明を受けています。実習生には、受け入れ時のオリエンテーションで同様の対応をしています。保護者には入園時に園での対応を説明し、個人情報使用同意書、個人情報保護に関する誓約書ももらっています。子どもの個人情報を含む書類は事務室と職員休憩室のカギのかかる書庫で保管管理をしています。職員の閲覧は自由ですが、園外への持ち出しは禁止としています。
- ④ 男女の区別はしないようにし、全体のバランスを見ながらグループ分けをしています。発表会は子どもが希望する役を配役しています。名簿は生年月日順としています。今後も無意識に性差による固定観念で保育をしていないか振り返る機会が増えることが期待されます。

Ⅱ-4 保護者との交流・連携



- ① 園の理念、基本方針はパンフレットや重要事項説明書に明記し、方針に沿った保育をしていくことを入園説明会で園長が話しています。しかし、今回の第三者評価の家族アンケートの園の基本理念や方針の認知度は69、3%で、ほかの項目と比べると低めの結果となっています。今後理念・方針への理解が深まるためのさらなる取り組みが期待されます。
- ② お迎への対応職員が担任以外の場合は「引き継ぎ簿」を活用し、保護者に口頭で子どもの様子を伝えています。2歳児クラスまで個別の連絡帳があり、保護者と情報交換を密にしています。個別面談は年2回あるほか、必要に応じそれ以外にも対応しています。年2回のクラス懇談会はクラスの様子、今後の活動について伝えています。
- ③ 保護者からの相談については、1階の3歳児保育室、2階の2歳児保育室が人目につきにくく落ち着いて話ができる場所として使用しています。使用の際は面談中のプレートを掲げています。相談の内容によっては担任のほか、園長・主任が同席をし、対応しています。今後は継続的なフォローができるように、記録を残されることが期待されます。毎月園だより、クラスだより、献立表を配付しています。幼児の日々の活動の様子はクラス別のホワイトボードで知らせています。また、今年度園のホームページを開設し、子どもたちの保育中の写真を保護者専用ページにアップをしています。行事写真などは定期的に販売をしています。
- ④ 年度始めに年間行事予定表を配付しています。変更があった場合は、玄関掲示や園だよりで速やかに知らせています。保育参観週間があり、参観日を選択できるようにしています。年2回6月と10月を乳児と幼児に分け、きょうだいがいる場合の配慮をしています。昨年度はその期間を利用し、衣服のリユース活動をしています。懇談会に欠席の場合は、懇談会資料（保護者からの質問等の内容、クラスから話した内容など）を渡し、口頭で補足をしています。
- ⑤ 保護者の意向で発足した「父母会」が活発に機能しています。1、2ヶ月ごとの父母会ミーティングには保育室を提供しています。運動会、発表会など園行事の手伝いの話合い、父母会アンケート作成・集計作業も父母会独自で実施しています。父母会と園の交換ノートがあり、活用されています。出された意見、意向（主食の提供について、衣服のリユース、ホームページ開設、卒園アルバムの製本方法変更など）は園で検討し、変更や実施をしています。

Ⅲ 地域支援機能

Ⅲ-1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供



- ① 園見学者や園庭開放時の育児相談、自治会や敬老会・鶴見警察署の巡回警察官との付き合い、園行事に近隣住民を招待し、日常の交流などを通じ、地域の子育てニーズを把握するようにしています。鶴見区の園長会、幼保小連絡会に園長・主任が出席し、地域の情報を得るとともに、意見交換をしています。
- ② 地域の子育て支援ニーズに応じるため、月に1度園庭開放を行っています。地域住民に向けての子育てに関する講習会を現在は実施していません。今後の検討が期待されます。

Ⅲ-2 保育園の専門性を活かした相談機能



- ① 園行事のお知らせ、園庭開放のお知らせなどは園の門扉に掲示しています。お手紙で近隣住民の方へ配付する場合があります。園のホームページに案内を載せています。育児相談日が月1回となっており、実績が少ない状況です。さらに情報提供し、利用者が増えることが期待されます。
- ② 関係機関との連携担当は園長・主任としています。相談内容に応じて対応ができるように、横浜市、鶴見区の行政機関、地域療育センター、医療機関、警察署、小学校などの連絡先をリスト化しています。

IV 開かれた運営

IV-1 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ



- ① 園行事には町会長、小学校校長、卒園児といった園と関わりのある地域の人々を招待しています。学校教育との連携として年長児が小学校へ行き、散歩、体験授業、給食試食会、芸術鑑賞会の参加をしているほか、園行事の移動動物園の際には近隣小学校の1年生を招待しています。また、中学生の職業体験学習を受け入れています。
- ② 園は地域とのつながりを大切に考え、普段の挨拶はもちろんのこと、園から地域についての相談ごとなどは町会長にしています。地域の方も園を温かく見守る姿勢があり、気軽に声をかけてくれるほか、花や野菜の水やり、片付けの手伝いなど協力的です。芋ほりは近隣農家の畑を提供してもらっています。近隣商店街のイベントには子どもたちの絵画作品が花を添えています。
- ③ 図書館利用、近隣にある森永工場見学、運動会は小学校校庭、発表会は鶴見区民文化センターサルビアホールなど地域の施設を利用しています。また、近隣8保育園との計画的な交流のほか、その中の4園とはさらに年長交流会、3～5歳児の異年齢交流、2歳児交流会など行き来をしています。
- ④ 地域行事に子どもたちが参加できるように、保護者向けにポスターを掲示したり、チラシを持ち帰れるようにしています。今年度は、総持寺の稚児行列参加呼びかけをしています。来年2月の近隣の神社の節分会には子どもたちと参加をする予定となっています。

IV-2 サービス内容等に関する情報提供



- ① 園の情報はホームページで発信しています。鶴見区地域子育て支援拠点わっくんひろばの地域向けの育児支援イベント時にパンフレットを配布しています。その他園の情報は、わっくんひろば発行の冊子からも知ることができます。
- ② 利用希望者の問い合わせや見学希望には、園長・主任が対応しています。園見学の際は、基本的には園が設定した日程でお願いをしていますが、希望者の都合に応じ、午後、土曜日も対応可能としています。見学者は「見学者一覧ノート」に記録しています。

IV-3 ボランティア・実習の受け入れ



- ① ボランティア受け入れマニュアルがあります。定期的に大学付属の中高生のミュージックベル演奏会、大学生サークルの学生によるパネルシアター、鶴見区のボランティア登録者による大道芸、腹話術などさまざまなボランティアを積極的に受け入れています。ボランティアからの感想などは行事反省の記録に残し、運営に活かすようにしています。
- ② 保育園の理解が深まり、保育士がやりがいのある仕事であると感じてもらえるように、実習生を受け入れています。受け入れの際は「実習生受け入れマニュアル」に則った対応をしています。実習生の目標に合ったプログラム設定をし、実習生が学ぶクラスの担任が中心となり、指導をしています。実習最終日には園長・主任も加わり反省会を行っています。

V 人材育成・援助技術の向上

V-1 職員の人材育成



- ① 園長は、クラス編成、勤務時間帯、経験年数などを考慮し人材配置を行い、必要な場合は設置法人本部に要請するほか、園独自でも逐次補充できるよう努めています。
- ② 園長は定期的に職員と面談して個々の目標を話し合う機会がありますが、人材育成計画は策定されていません。運営理念や方針に基づいた人材育成計画の策定が期待されます。
- ③ 研修計画は主任が担い、園内研修計画を立てています。外部研修情報を職員に知らせ、本人の希望も取り入れ、効果的な研修となるように園長・主任が助言したり、勧めたりしています。研修後は振り返りを行っています。
- ④ 非常勤職員は保育補助の立場で業務にあたっています。非常勤の立場であっても、園の一職員としての自覚をもって仕事をしています。各会議録、研修報告書を自由に閲覧できるようにしています。園長が、年に3回程度面談をし、業務についての確認や意見交換をする機会としています。日常的に主任が話をよく聞き、コミュニケーションを図っています。

V-2 職員の技術の向上



- ① 園独自の「ふりかえり表」があり、子どもとの関わりや職員間の連携など、各項目について1年間の振り返りをしています。必要に応じ、東部地域療育センター、体操・リトミックの外部講師から指導や助言を受けています。
- ② 年間指導計画、月間指導計画、週日案があり、書式が定型化されています。月間指導計画・保育日誌に自己評価の欄があります。年間指導計画は期ごとに項目ごとの評価用紙を使用しています。子どもの様子、取り組む姿を書くように努めています。見直し後、次の指導計画に反映しています。振り返りから気づいた課題は職員会議で話し合っています。
- ③ クラス担当職員間や幼児・乳児会議で話し合い、職員会議で報告しています。福祉サービス第三者評価受審にあたり、全職員で取り組み、話しあう機会を重ね、課題等の把握に努めています。園としての自己評価は公表していません。職員の自己評価や園の自己評価を計画的に行う仕組みを整えていくことが期待されます。

V-3 職員のモチベーションの維持



- ① 職員配置図に職務分担を記載していますが、職員の経験・能力・習熟度に応じた期待水準を明文化したものはありません。今後の策定が期待されます。
- ② クラス運営、行事担当、各業務において現場にいる職員が主体的、自発的に判断して保育にあたるよう可能な限り、権限を委譲しています。主任・園長に連絡や報告をし、最終的な責任を明確にしています。
- ③ 園長は年3回職員と個別面談をし、職員の満足度や要望を把握しています。各会議や打ち合わせ時に意見・要望を聞くほか、日常的に園長、主任が現場に入り、話しやすい雰囲気を作っています。

VI 経営管理

VI-1 経営における社会的責任

- ① 職員が守るべき法・規範・服務規程などは就業規則に明記されています。入職時に説明も行っています。年度ごとの設置法人の現況報告書、財務諸表は公開していません。事業運営の透明性のため、今後の検討が期待されます。
- ② 他施設での不適切事例や、新聞・ニュース報道などを職員会議や園内研修で取り上げ話し合っています。また系列園での「保護者アンケート結果」をもとに、自園ではどう考えるかを話し合いました。
- ③ ペットボトル、牛乳パック、段ボールなどの廃材で手作りおもちゃを作ったり、子どもの製作に活用しています。節電・節水を心がけています。野菜を植えるために、土壌混合再生を行っています。資源循環局職員が来園し、子ども向けの説明をしてもらいました。子ども服のリユース交換会を行いました。数々の取り組みがありますが、環境への考え方、取り組みについての明文化は確認できませんでした。運営に活かされている様々な取り組みについての明文化が期待されます。

VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等

- ① 保育理念、基本方針が明記された「重要事項説明書」を職員に配付しています。保育目標、保育課程を園内に掲示しています。
- ② 重要な意思決定が必要な場合には、前もって文書を配付して、懇談会で話し合いや、意見交換をする体制としています。また父母会（保護者組織）とも連携をとっています。
- ③ 主任は、園長と協力し、毎日クラスを見回り、保育に入り職員の様子を見ながら、指導や助言を行っています。職員の心身の状況を把握し、体のリズムが崩れないようなシフト編成を心がけています。またどのクラスの子どもや保護者にも接することができるように、シフトを組んでいます。

VI-3 効率的な運営

- ① 園では、園長が鶴見区園長会、幼保小連絡会などの会合に出席したり、他園に問い合わせするなどして情報収集・分析をしています。園に関わる事項は職員会議で話しあっています。
- ② 園としての、中長期計画は策定されていません。園の進む方向を明確にするため、中長期計画を策定し、定期的な進捗状況確認の機会を持つことが期待されます。

利用者本人調査

調査対象

園全体の在籍数：

0歳児クラス：10名	1歳児クラス：10名	2歳児クラス：10名
3歳児クラス：12名	4歳児クラス：12名	5歳児クラス：12名

調査概要

《0歳児クラス》

(遊び)

保育スペースを低い仕切りで分け、床部分と畳部分を使い分けています。床部分では、ハイハイをしたり、コロコロ寝そべって身体を動かす子もいます。ハイハイしている子の近くに、手で握れるおもちゃを置くと、それに向かって近づき、両手に持ちニコニコしています。畳部分では、柵につかまってハイハイしている子をのぞいたり、柵を伝って歩いたり、低い台にまたがって座ったり、保育士の膝に乗っている子もいます。

ペットボトルの中にビーズなどを入れた手作りのおもちゃや、手で握れるおもちゃで遊んでいる子もいます。ペットボトルを振って、音がでるのを楽しんでいます。「いい音だね」「楽しいね」と声掛けされると、嬉しそうに繰り返しています。

(食事)

昼食は、時間差を設け、2グループに分かれてとっています。食事をしていないグループはサークルで仕切ったスペースで、自由におもちゃで遊んだり、保育士に抱っこしてもらったり、お友だちが食事しているのを眺めたりしています。

食事をしているグループでは、スプーンを握り、一生懸命食べようとしています。保育士がさりげなく援助したり、食べさせたりしています。「おいしいね」「いっぱい食べようね」など声掛けしながら、ゆったり食事をしています。

個々のペースで食事を終わると、保育士に歯磨きをしてもらい、お手拭きで手もきれいに拭いてもらって「ご馳走様でした」と保育士と一緒に挨拶しています。手を合わせたり、こくと頭を下げる子もいます。

(授乳・午睡)

授乳のある子は、午睡前に、保育士に抱っこされて飲ませてもらっています。目と目を合わせて、ゆったりした時間を過ごしています。飲み終わると、落ち着くまで、抱っこして背中をなでたり、部屋の中を抱っこして、歩いたりしています。布団にそっと寝かせると、すぐに寝入っています。

部屋はカーテンが引かれて薄暗くなっています。他のお友だちは布団に横になったり、保育士におなかや頭をなでてもらっています。横にならずに歩き回っていた子も、保育士が少し抱っこすると安心したのか、抱かれたまますぐ目を閉じています。

(おやつ)

遊びのスペース(柵で仕切られた畳部分)と別のスペースに机を置き、おやつの準備が来ています。全員ではなく、半数ずつ時間をずらしておやつを食べます。各自のエプロン、お手拭き(エプロン・お手拭きは各自違ったものを用意)が席に置いてあります。

遊びスペースからだっこしてもらい、席に着く子や、両手を引いてもらう子、片手つないで席に近づく子、自分で歩く子など、月齢に応じ職員が対応しています。「どこが自分の席かな」「エプロンどれかな」「間違いなく座れるかな」の声掛けに、皆、ちゃんと、自分の席に着き、エプロンもつけようとしています。

袋に入ったビスケットは、袋から保育士が出してお皿に載せ一人一人に「〇ちゃん、どうぞ」と置いています。美味しそうに、かじったりなめたりしていました。

《1 歳児クラス》

(朝の会)

季節の歌を何曲か皆で歌った後、「朝の会」が始まります。一人ずつ名前を保育士が読んでいます。返事が返ってくると、それぞれに「おはよう」や「元気だね」「はい上手なお返事」など声掛けしています。「今日は、△ちゃんお休みなので全部で9人です。先生のお名前も呼ぼうね」とクラス担任(複数)の名前も呼びます。その場にはいない場合は「A先生、今、おやつの準備をしています」「B先生は遅番です。後で会えるね」と伝えています。「今日、お誕生日のおともだちがいます」紹介されて、皆の前に出てくると恥ずかしそうです。皆で誕生日の歌を歌ってもらい、「おめでとうおめでとう」と拍手されると、ニコニコ嬉しそうです。

(午前おやつ)

保育士が「おやつのクッキーは、袋にはいています。自分で開けてお皿に入れて、食べましょう」「袋にちょっと空いているところがあるから、そこからビリって開けると、うまく開けられるよ」と伝えています。「ちょっと、あいているところはどこかな」「うまく見つけられる？」保育士に、場所を覚えてもらう子もいます。「開けた袋は集めます」子どもは、用意されたポリ袋に、次々に入れていました。

(食事)

それぞれのペースで食事をしています。おかわりしている子もいます。保育士が、個々の子どもの様子を見ながら、「スープ、あったかいからおいしいね」「スプーンじゃなくて、お椀でごくごく出来るかな」「ごっくん、もぐもぐしよう」と声掛けしたり、援助する時に、「お口の中、一杯になってない？」と確認しながら、行っています。

(遊び)

保育室内のマットが敷かれたところで、車や乗り物のおもちゃ、大型ブロックで遊んでいます。車を自分で転がしたり、友だちと比べたり、ブロックを長く並べている子もいます。おもちゃで遊ばず、寝そべったり、保育士にくっついてる子もいます。ヘリコプターを持って手を伸ばしている子に「あーヘリコプターがお空飛んでいるね。どこいくのかな」と保育士が声掛けすると、さらに手を伸ばしています。車で遊んでいる子が「どこいくの、待って待って」と話しかけられると、笑いながら遠ざかります。

しばらくして保育士が「みなさんにお知らせがあります」と話し始めると、皆何かなという表情を浮かべています。「遊んだ車やおもちゃを箱の中に入れましょう」「お片付けしますよ」「上手にしまえるかな」と声掛けすると、それぞれ使っていたおもちゃをしまっています。残っている車があり、しまおうとする子に「この車は、〇ちゃんが使っていたから、きっと〇ちゃんが片付けるよ」と説明すると、〇ちゃんが急いで片付けにやってきます。

(午睡)

カーテンを閉め、薄暗くしています。布団に横になるものの、ゴロゴロ転がったり、腕をバタバタ動かしたりしています。保育士に話しかけられたり、背中をトントンしてもらっています。午睡のスペースから離れたところで座り込んでいる子に「こっちにおいで～。みんなとお昼寝しよう」と保育士が声掛けすると、自分の布団に横になっています。

《2歳児クラス》

(散歩)

歩きながら、保育士と「◇ちゃん、今日はおやすみだね。お熱があるんだって」「早く治るといいねえ」「一緒に遊びたいね」や、「柿の木があるよ」「赤くなってきたね」「テントウムシだ」「虫さん今日は」など色々な話をしています。

鶴見川を見ながら「川がキラキラしてきれいだね」「お魚はいるかな」川沿いの土手の草むらでは、草を抜いたり、走ったり、「バッタいるかな」「ちょうちょだ」「ネコもいる」など、生き物に関心があるようです。

電車が通るのを近くで見ることが出来る場所では「何の電車来るかな」「東海道線かな。京浜東北かな」電車が通るたび、子どもは、手を振ったり、伸びあがってみたりしています。保育士が「静かにしてみよう。耳をすませてね。何か聞こえる？水の音かもしれないね。電車が来る音がする？」子どもが真剣な顔をしています。電車がくると大喜びです。「すごい音がしたね」「貨物列車が来るといいな」「すぐ来るかな」と話が尽きません。

(食事)

4、5人ずつのグループでテーブルを囲み、食事をしています。保育士は子どもの食事の様子をみながら、「お皿に手を添えると食べやすいよ」「お話しするのは楽しいけど、口に入れたままではしゃべらないよ」とマナーも伝えています。調査員にも「おいしい?」「おかわりもできるんだよ」「〇ちゃんはいつもおかわりするんだ」「お野菜もいっぱい食べるよ」など子どもが次々と教えてくれます。

(排泄)

活動の合間に保育士が声掛けし、トイレに行っています。シートの上で、ズボン、おむつの着脱をしています。トイレをすませると「せっけんで手を洗おうね」と声掛けしています。ズボンが上手くはけない場合には「反対になっているよ」「足をこっちから入れて」と話しかけています。

《1・2歳児合同クラス》

(おやつ)

2階のホールに1歳児、2歳児ごとにテーブルを出し、一緒におやつを食べています。今日はお誕生会だったので、特別なおやつとして、クリーム付きのロールケーキです。栗甘煮もついています。「クリーム、ふわふわ」「秋だねえ、栗も食べて」「ケーキと一緒にクリームも食べようよ。クリーム残っちゃうよ」「おうちでも、ケーキ食べるよ」など、にぎやかです。フォークで、食べています。

おやつを食べる様子を調理担当職員が見に来ています。子どもの食べる様子を見ながら、クラス担任と、フォークを使うか、スプーンがいいかななどの打ち合わせをしていました。

《3～5歳児合同クラス》

(朝の自由遊び)

4、5歳児クラスの保育室の仕切り壁を開け二部屋分を使用しています。机を二つ、ござ、布のマットでコーナーを作っています。一つの机では3～4人がスタンプ遊びをしています。出来上がった作品は家に持って帰るようです。もう一つの机では6～7人が双六を楽しんでいます。

ござのコーナーでは平たいブロックを組み合わせてバックや剣など思い思いに作っています。歯ブラシに見立て歯みがきごっこをする子どももいます。保育士は「ここはこうするといいよ」など適宜手助けをしています。出来上がったバックを斜めがけし、くるんと回っておしゃれ気分を味わっている子どももいます。布のマットでは違う形のブロックを組み合わせクレールン、ロボット、車など組み立てています。

時間になると3歳児クラスの子どもたちは「ありがとうございました」と元気に挨拶をして、クラスの活動(運動会の練習)に移っていきます。練習の様子を数人の4、5歳児が保育室の出入口に座り、見学しています。見学しながらも振り付けを覚えているので体が自然に動きます。

(散歩)

「今日は(鶴見)川の波、穏やかで柔らかいね」「さかないかな」「ぼく、きのうブドウ食べた」「秋の空だね」など目的地の公園まで歩く間、子どもたちと保育士の楽し気なやりとりが続きます。

公園に到着すると、保育士からの注意事項のあと、子どもたちは一斉にかけ出します。ドングリ拾いに余念のない子ども、「バッタいないかな～」と探す子ども、「あわぶくたった・・・」と7~8人で遊ぶ姿もあります。バナナ鬼に入れてもらいたくて「なかまにに入れて」と伝えますが、なかなか気づいてもらえない子どもは保育士に泣きつきます。励まされ、「なかまにに入れて」と再度声をかけると「いいよ」と言われ、子どもは満面の笑顔で走り出します。

ある程度遊んだ後水分補給をし、3歳児クラスから順番に運動会の練習に入ります。音楽や、保育士の掛け声によって、子どもたちは元気に体を動かします。出番が来るまで、ほかのクラスの子どもの自由遊びは続きます。

《3歳児クラス》

(食事)

保育士も同席し、食事をとりながら「運動会の練習みんなとっても上手でした」と子どもたちに話しかけます。それでも子どもたちは自分を褒めてもらいたくて、「ぼくは?」「わたしは?」と口々に尋ねます。「じょうず」と保育士は答えます。子どもたちは満足そうな表情になります。

おかわりは、「すまし汁おかわりください」「ごはんとおかずおかわりください」と子どもたちは自分から保育士に伝えます。「すごい、いっぱい食べるね～」と保育士も笑顔です。苦手な食材があり、食べるのがゆっくりな子どもには「これ食べると足早くなるよ、頑張っ」と声かけしています。

(歯みがき)

保育室の窓側に椅子を並べ、子どもたちは座ります。保育士の掛け声に合わせて、歯を磨きます。順番に仕上げ磨きをしてもらい、口をすすいでいます。

(午睡前)

自分で着替えが終わった子どもは布団に行き、寝転がったり、座って隣の子とも同士おしゃべりしたり、一人で絵本を広げたりしています。

《4 歳児クラス》

(朝のお別れ)

出がけに納得できないことがあり、その気持ちを切り替えられずに園まで来たので、保護者となかなか離れられない子どもがいます。保護者が子どもと目線を合わせていろいろ話しかけていると、渋々ながら納得できた様子で保護者から離れます。保護者は保育士に事情を詳しく説明しています。保育士は子どもをスタンプ遊びの机に誘い、さり気なく子どもの頭をなでています。

(排泄)

活動の区切りに各自トイレに行っています。「〇〇ちゃん、トイレは？」と別の子どもに聞かれ、「あっ、わすれてた」と言って、トイレに向かう子どももいます。

《5 歳児クラス》

(食事)

当番の子ども2名が机を回り、箸からおかず、ごはんと順番に一人一人に配膳していきます。スープはこぼさないように慎重に運びます。配膳が終わるまで大人しく待つことがお約束のようですが、子どもたちはおしゃべりに花がさきます。保育士が時おり「手はお膝だよ」など注意をしています。

全員で「いただきます」をして食べ始めます。同席して一緒に食事を摂っている保育士と午前中に取り組んだ運動会の練習の話になると、子どもたちは「わたしとこちらの〇〇くんが応援団長なの」「リレーのアンカーなんだ」と調査員に教えてくれます。

おかわりは自由で、自分で食べられる量を考え、自分でよそっています。おかず、ごはん、スープすべておかわりをする子どももいます。

(どれかな)

午後のおやつの後、保育室前に置いた机で当番の子ども2人が今日の給食（かぼちゃのグラタン、水菜とちくわのサラダ、カブスープ、ごはん、おやつは栗のロールケーキ）の三色食品群作りをしています。

たくさんの手作りの食材写真のマグネットを缶から出して机に広げながら、献立表を見たり、玄関にある実物の給食展示で確認をしたりしながら赤、黄、緑にあたる食品はどれか、頭を寄せ合って考えています。もう一人のお手伝いを買って出た子どもも加わり「これじゃない？」など話し合っています。

家族アンケート結果

アンケートの概要

1. 調査対象

利用者の全家族

2. 調査方法

アンケートは評価機関で準備をして保育園から配布してもらいました。回答は家族から郵送にて直接に評価機関に送っていただきました。

3. アンケート発送数等

発送数：	57 通	返送数：	41 通	回収率：	72%
クラス：	0歳児： 8 通	1歳児：	6 通	2歳児：	7 通
	3歳児： 9 通	4歳児：	4 通	5歳児：	6 通

4. 全体をとおして

利用者の家族単位にアンケートを行い、72%の回収を得ることができました。

アンケートに回答した家族は、「保育園を総合的に評価した満足度」では「満足」が49%であり、「どちらかといえば満足」も含めると90%の家族が満足しております。

内容別では、「満足」の高い項目として「お子さんが給食を楽しんでいる」は71%が「満足」であり、「どちらかといえば満足」も含めると100%が満足している状況です。続いて「満足」の多い項目は、「給食の献立内容」66%、「基本的生活習慣の自立に向けての取り組み」63%と続いています。

その一方で、「年間の保育や行事に、保護者の要望は活かされているか」については、「満足」が15%に留まり、「不満」は10%となっています。他に、「不満」がある項目では「お子さんへの体調への気配り」「保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応」「意見や要望への対応」であり、共に7%の「不満」となっています。

施設への自由記入欄には、「保育時間の延長」「残業などの場合に柔軟に対応して欲しい」などの要望があります。

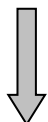
「園の保育目標・保育方針を知っているか」では、「よく知っている」は2%に留まっています。「まあ知っている」を含めた回答者の大半は、その目標や方針に賛同しています。保育園の目標・方針を知らせる工夫により、賛同者を増やし、保護者と園とが協力して保育の質の向上が図られることが期待されます。

アンケート結果

■ 保育園の基本理念や基本方針について

問1 あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存知ですか

1 よく知っている	3 どちらともいえない	4 あまり知らない
2 まあ知っている		5 まったく知らない



1	2	3	4	5	無回答
2.4%	65.9%	19.5%	9.8%	2.4%	0.0%

付問1 【「1 よく知っている」または「2 まあ知っている」とお答えの方】

あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか。

1 賛同できる	3 どちらともいえない	4 あまり賛同できない
2 まあ賛同できる		5 賛同できない

1	2	3	4	5	無回答
53.6%	39.3%	3.6%	0.0%	0.0%	3.7%

■ 保育園のサービス内容について

問2 お子さんが入園する時の状況について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
見学の受け入れについては	43.9%	26.8%	4.9%	0.0%	17.1%	7.3%
その他: 見学していない、見学に行けなかった、上の子が通っていたので見学なし、覚えていない						
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	43.9%	39.0%	4.9%	2.4%	4.9%	4.9%
その他: 見学に行けなかった						
園の目標や方針についての説明には	26.8%	68.3%	2.4%	0.0%	0.0%	2.4%
その他:						
お子さんの生育歴などを聞く対応には	53.7%	36.6%	0.0%	4.9%	4.9%	0.0%
その他: 面接はなかった						
保育園での一日の過ごし方についての説明は	39.0%	51.2%	9.8%	0.0%	0.0%	0.0%
その他:						
入園後に食い違いがなかったかなどもも含め、費用やきまりに関する説明については	36.6%	41.5%	14.6%	4.9%	2.4%	0.0%
その他:						

問3 保育園に関する年間の計画について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
年間の保育や行事についての説明には	36.6%	56.1%	2.4%	4.9%	0.0%	0.0%
	その他:					
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	14.6%	56.1%	14.6%	9.8%	4.9%	0.0%
	その他: 要望は聞かれていない					

問4 日常の保育内容について

「遊び」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
クラスの活動や遊びについては (お子さんが満足しているかなど)	48.8%	43.9%	4.9%	0.0%	2.4%	0.0%
	その他: どのように過ごしているか不明					
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	34.1%	51.2%	4.9%	4.9%	4.9%	0.0%
	その他: どのようにしているか不明、まだ外遊びの年齢ではない					
園のおもちゃや教材については (お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	43.9%	43.9%	9.8%	0.0%	2.4%	0.0%
	その他: どのようにしているか不明					
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	39.0%	48.8%	4.9%	4.9%	2.4%	0.0%
	その他: どのようにしているか不明					
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もてているかについては	43.9%	51.2%	0.0%	0.0%	4.9%	0.0%
	その他: よくわからない、関わりがもてているか不明、					
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	39.0%	53.7%	0.0%	2.4%	4.9%	0.0%
	その他: よくわからない					

「生活」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
給食の献立内容については	65.9%	29.3%	2.4%	2.4%	0.0%	0.0%
その他:						
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	70.7%	29.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他:						
基本的な生活習慣（衣服の着脱、手洗いなど）の自立に向けての取り組みについては	63.4%	34.1%	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%
その他:						
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	51.2%	43.9%	4.9%	0.0%	0.0%	0.0%
その他:						
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	41.5%	31.7%	2.4%	2.4%	22.0%	0.0%
その他:まだ時期ではない						
お子さんの体調への気配りについては	43.9%	39.0%	7.3%	7.3%	2.4%	0.0%
その他:						
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	51.2%	36.6%	2.4%	7.3%	2.4%	0.0%
その他:まだケガをしたことがない						

問5 保育園の快適さや安全対策などについて

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
施設設備については	48.8%	46.3%	4.9%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	48.8%	51.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	31.7%	53.7%	12.2%	2.4%	0.0%	0.0%
	その他:					
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	41.5%	41.5%	12.2%	2.4%	2.4%	0.0%
	その他:					

問6 園と保護者との連携・交流について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	41.5%	43.9%	4.9%	2.4%	4.9%	2.4%
	その他:					
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	53.7%	36.6%	9.8%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	36.6%	48.8%	12.2%	2.4%	0.0%	0.0%
	その他:					
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	36.6%	48.8%	14.6%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	36.6%	48.8%	14.6%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
保護者からの相談事への対応には	41.5%	48.8%	4.9%	4.9%	0.0%	0.0%
	その他:					
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	26.8%	34.1%	29.3%	7.3%	2.4%	0.0%
	その他:					

問7 職員の対応について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
あなたのお子さんが大切にされているかについては	46.3%	46.3%	7.3%	0.0%	0.0%	0.0%
その他:						
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	53.7%	43.9%	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%
その他:						
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	39.0%	34.1%	2.4%	0.0%	22.0%	2.4%
その他:アレルギーなし、わからない						
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	41.5%	41.5%	7.3%	4.9%	2.4%	2.4%
その他:先生によって違う						
意見や要望への対応については	26.8%	41.5%	14.6%	7.3%	9.8%	0.0%
その他:特に意見がない						

問8 保育園を総合的に評価すると、どの程度満足しているか

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答
総合満足度は	48.8%	41.5%	2.4%	4.9%	2.4%

事業者コメント

事業者名：株式会社にこにこ 末吉にこにこ保育園

園長となり3年目、そして当園にとって初めての第三者評価受審とあり、私を含め職員皆とても緊張した中でのスタートとなりました。

評価を行ったことで、保育感の違いや、認識の違いが明らかになるなど、「現状」を見直すことの大切さを改めて実感しました。

思い立ったが吉日。訪問調査にて改善点の指摘を受けたことから、早速職員全員にアンケートを取り、それをもとに「現状の保育」を見直す会議を行い、当園の「これから」を皆で話し合い、園の自己評価へと繋げました。

今後は「ブレないこと」をモットーに、職員全員が責任ある立場としてのプロ意識を持ち、「何が本当に子どものためになるのか」を常に追求し、子どもたちを愛しそして愛される保育園を目指し精進して参ります。

保育士のやりがいや充実感が子どもたちの幸せに繋がることと信じ、お互い切磋琢磨し、そしてお互いを思いやり、向上心を持って真摯に取り組んでいきたいと思えます。

保護者の皆さまには、お忙しい中アンケートへのご協力ありがとうございました。回収率の高さから園への関心の高さを感じ、これからも保護者の皆さまとは、子どもたちを共にはぐくむ「共育」、そして園として親として共にはぐくむ「共育」に力を合わせていくことがとても大切であると感じております。

最後になりましたが評価機関の方には、励ましはもちろん、考え方の幅を広げてくださったこと、ヒントやアクションを起こすきっかけをくださったこと、そして何より恐れず進む勇気をくださったことに本当に感謝しています。ありがとうございました。



株式会社フィールズ
〒251-0024 藤沢市鵜沼橋1-2-7 湘南リハウスビル3F
TEL : 0466-29-9430 FAX : 0466-29-2323